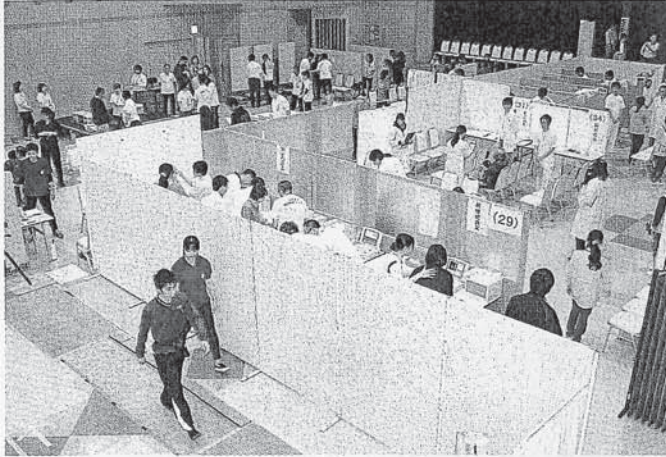


大幅増の2000項目分析

1200人参加 弘大など今年度「岩木健診」スタート



ビッグデータ充実へ

弘前大学などは27日、弘前市岩木地区の住民を対象とした大規模な健康調査「岩木健康増進プロジェクト健診」を市中央公民館岩木館などを会場にスタートさせた。今年度は健診データの分析項目数を、これまでの600から2000へ大幅に増大。より詳細な分析を通じ、住民の健康づくりと、世界的に熟視線を集める健康ビッグデータ集積を一層充実させる。

(西尾英)

歩行能力など新たに追加

父は一層多くの関心を集め、ヘルスケアに取り組み大手企業が続々と参画。これに伴い、より詳細な調査・分析が進められている。

今回は、腸内細菌や認知症関連項目などがより詳細になり、このほかロコモティブシンドローム関連の歩行能力テスト、膝の磁気共鳴画像装置(MRI)検査が新たに加わった。各データは疾病の予防法確立などに生かされる。

初日の27日は住民約140人が参加。問診をはじめ、血液検査、エコー検査、運動機能検査など多岐にわたる検査を受け、医師や各学部の学生、参画企業、ひろさき健康増進科の面から、そして産官学民が集い健康を人がスタッフとして対応に当たった。

同大大学院医学研究科の中路重之特任教授は「世界的な注目が集まった。また向COI戦略統括の村下公一教授は「価値あるデータ集積により、研究と新たな産業創出という両軸で進めたい」と話した。

13年目となる今回は、6月5日までの10日間で約1200人が調査に参加する。

2014年度には、これまでの同健診の調査データを認知症や生活習慣病の予防法研究に生かす研究が文部科学省の「革新的イノベーション創出プログラム(COI事業)」の拠点に採択。これにより認知症関連の調査項目が増やされた。さらに、これまでにない健康な人に関する長期的・他項目のビッグデータ

2000項目に及ぶ健康ビッグデータを分析する岩木健康増進プロジェクト健診